

いちばん 瓦版

武家地と町人地が隣り合う、江戸の中枢

岩城升屋店前之図 (安藤広重作)



江戸城からほど近いこの地域には、多くの武士たちが住んでいたようです。ただ、新宿通り(旧甲州街道・現在の麹町大通り)沿いだけは、町屋として商人や職人が集まり住ん

でいました。大工・左官などの職人から、米屋・菓子屋・薬屋・人形屋・下駄屋などあらゆる業種の店が軒を連ね、「麹町へ行けば何でも間に合う」と云われたほどです。

また、討ち入り前の赤穂浪士たちが身を隠していたことでも有名なこの町。四十七士のうち約3分の1が、現在の麹町三丁目、麹町四丁目あたりの潜伏地から、討入りに向かったとされています。

麹町へ行けば何でもそろろ

江戸城からほど近いこの地域には、多くの武士たちが住んでいたようです。ただ、新宿通り(旧甲州街道・現在の麹町大通り)沿いだけは、町屋として商人や職人が集まり住ん

でいました。大工・左官などの職人から、米屋・菓子屋・薬屋・人形屋・下駄屋などあらゆる業種の店が軒を連ね、「麹町へ行けば何でも間に合う」と云われたほどです。

また、討ち入り前の赤穂浪士たちが身を隠していたことでも有名なこの町。四十七士のうち約3分の1が、現在の麹町三丁目、麹町四丁目あたりの潜伏地から、討入りに向かったとされています。

「商の道かせぐらん麹町」と古い俳諧に読まれた麹町は、徳川家康の江戸入府後、半蔵門から四谷見附を経て新宿(内藤新宿)

江戸開府当初からの「商(あきない)の町

江戸の高級商店街

麹町大通り

へ通じる新宿通り(旧甲州街道・現在の麹町大通り)沿いに町屋が開かれ、誕生しました。

この界隈が麹町と名付けられた由来については諸説あります。

町内に「小路」が多かったため、米や麦、大豆などの穀物を発酵させた「麴」をつくる家があったため、また武蔵国府(現・府中市)へと向かう「国府路」があったからとも言われています。



麹町

町名由来シリーズ②

町名の一つ一つには、地域の人々の生活から、歴史的な出来事まで、様々な時代の足跡が刻まれています。特に、私たちのまち千代田区の町名には、江戸城の膝元として、由緒ある町名の由来と、そこに刻まれた地域の変遷が刻まれており、千代田区の魅力の一つとも言えます。

参考資料

『千代田まち事典』

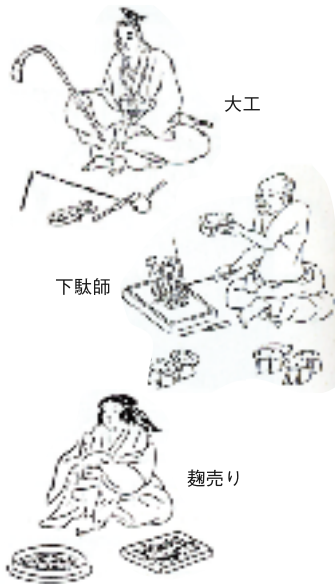
発行/千代田区区民生活部 定価1,200円 ※区役所ほかで購入できます

麹町地区の中心を走る麹町大通り。道幅が広く、緑豊かなとても美しい通りで、特に高層ビルを背にした半蔵門の眺めはおすすりめです。整備が進み、変わりつつあるこの街では、戸建住宅はほとんど見なくなり、代わりにビルやマンションが立ち並びます。銀行なども比較的揃っており、生活利便の面でも充実しています。

この通りの思い出のひとりに、昭和34年の皇太子殿下と美智子妃の御成婚パレードがあります。当時の通りは人垣で埋めつくされ、祝賀ムードで溢れていました。

ビル街でありながら、一方で老舗のお菓子屋さんや複数、脈々と営業されていることも心が休まります。お店の二階で、抹茶に和菓子を頂くのは、まさに至福の時です。四ツ谷駅前のスクワール麹町ビルのエレベーターから、西日が沈むのを垣間見るのも、ちょっとしたおきでしょうか。

文一 一番町建物 高野



江戸時代の職業の様子 <群書類従より>